

1. 評価報告概要表

作成日平成20年 6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1070300668
法人名	株式会社デリシャスライン
事業所名	グループホームあおぞら
所在地	桐生市境野町3-2113 (電話) 0277-20-7620

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年6月18日

【情報提供票より】(20年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤8人, 非常勤10人, 常勤換算10.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋外壁ALC造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50円×2回 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤江医院、大和医院、新宿医院、恵愛堂病院、桐生厚生病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

食品会社が母体なので、食事が新鮮で味も良く入居者の方々に大変好評である。家族の来訪時には食事を無料で提供し、入居者と一緒に食事を楽しめる場を提供し訪問しやすい環境づくりをしている。近くの同法人のデイサービスの陶芸釜を利用して、レクレーションの一つとして陶芸を行っている。物を作る喜びや作品の展示、文化祭への出品、販売等行い、入居者の楽しみの支援をしている。ホーム内は清潔で、職員と入居者の会話から明るく楽しい生活が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を受けて、課題について職員間で話し合い、地域との関わりにおいて積極的に交流を図り、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員が原案を作成し、全職員で確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度開催し、町会長、民生委員、老人会会長、職員、市職員、家族、入居者が出席している。会議では、ホームの現状報告や行事参加を呼びかけている。また、その時々火災等についての話題について、理解を得たり要望等を出し合い、話し合いをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>町会長、管理者、施設長を中心に苦情処理委員会を設置し、様式を用意し対応している。メンバーや連絡先を玄関に提示している。また、第三者委員を選出している。外部者に意見を表す機会としての第三者機関として、市や国民健康保険団体連合会の窓口を説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩に出かけた際は、近所の方に声をかけたり、近所にある長寿センターに来た方が立ち寄ってくれることもある。また、地域のボランティアを受け入れたり、公民館の文化祭に入居者が製作した陶芸等の作品を展示し地域の方と交流するなど、地域の行事にも参加している。ホームの行事には、回覧を通じて近所の方に参加を呼びかけ積極的に交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から「親のように子の様に、接する気持ちを大切に」を理念としている。しかし、地域との関係性について、理念に盛り込まれていない。	○	理念には、地域密着型サービスとしての役割等について盛り込まれているが、文言に含まれていないので見直しを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや申し送り時に、些細なことでもどうすればよいのかを話し合い、理念に沿って自分の親をみるような気持ちで入居者に接していくということを念頭に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に入って、回覧板の回覧を依頼している。散歩に出かけた際は、近所の方に声をかけたり、近所にある長寿センターに来た方が立ち寄ってくれることもある。また、地域のボランティアを受け入れたり、公民館の文化祭に作品を展示し地域の方と交流するなど、地域の行事にも参加している。ホームの行事には、回覧を通じて近所の方に参加を呼びかけ積極的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けて、課題について職員間で話し合い、積極的に地域と関わる交流を図る等の改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員が原案を作成し、全職員で確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、町会長、民生委員、老人会会長、市職員、家族、入居者が出席している。会議では、ホームの現状報告や行事参加を呼びかけている。また、その時々マスのコミュニケーション等の話題について、話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行き来があまりない。	○	ホームの実態や取り組み等を伝えていく機会づくりに努めていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に一度ホーム便りを作成し、請求書と一緒に家族に送付している。来所時には、職員や施設長が声かけを行い、最近の様子や金銭管理などを報告している。来られない家族には、電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	町会長、管理者、施設長を中心にして、苦情処理委員会を設置し、メンバーや連絡先を玄関に提示している。また、第三者委員を選出している。外部者に意見を表す機会としての第三者機関として、市や国民健康保険団体連合会の窓口を説明している。	○	言い出し難い入居者等を考慮した意見の表す機会として、意見箱の設置等を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者に聞かれた時には説明をしたり、理解できない場合には、お休みをしていることを伝えて納得してもらい、不安にならないように対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他の施設との全体研修会に参加したり、グループホーム連絡協議会で行う研修会に、順番で参加している。参加できなかった職員にわかるように、研修の報告書が事務室にあり、閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの職員交換交流が年2回あり、職員が順番で参加している。また、群馬県グループホーム連絡協議会主催の年1回の事例発表会等に参加し、職員の質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族と面接を行い、説明をしている。また、見学に来ていただいたり、空いている居室があれば、体験入居も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫ができる方に教えてもらったり、日常生活のなかで「感謝の気持ち」や「もったいないの精神」を教えられ、職員も感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」「助かりました」のお礼の言葉が自然にでてくるようになるなど、入居者を尊敬し支えあう存在となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人の話の中から汲み取ったり、意向の把握が困難な方は、家族からの聞き取りを行うことで意向の把握に努めている。束縛されないで気儘に暮らしたいという入居者には、できるだけ見守りに徹し、レクリエーション等の参加の呼びかけは会話を通して意向を掴むようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者2人から3人を、職員1人が担当する担当制となっている。本人や家族から聞き取りを行い、月2回の会議と申し送り時のカンファレンスの職員の意見を基に、ケアマネージャーが介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しを行っている。また、状態の変化や希望に変化があった場合は、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理容師が月1回訪問したり、急な通院への送迎や付き添い、家族の要望による入居者に必要な衣類等の手配等、本人や家族の希望や状況により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に診察を受けており、往診をしてもらうなど定期的にホームに来て、入居者の健康管理を行っている。また、入居者の状態に変化があった場合には、ホームからかかりつけ医に指示を仰いだり、往診をしてもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護ステーションとの連携により、24時間の医療的ケアを可能にしている。主治医、家族と連携をとり、今年から終末期の意志確認書を家族と交わし、署名捺印をもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁をしても、周りの入居者に気づかれないように配慮した介護が行われている。トイレは、その人にあった時間を職員は把握しており、時間でさりげなく誘導することもある。また、個人の書類は、事務所の棚に保管され第三者の目には届かないようにしている。言葉使いは、強い口調や強制するような言い方はせず、一人ひとりの誇りを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決まっているが、何事にも強制はせず本人の意志を尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、同一敷地内の厨房より運ばれてくる。入居者と職員は、それを盛り付けし配膳している。童謡、クラシック、演歌等入居者の希望の曲が流れる中で、職員と入居者は毎食同じテーブルで会話をしながら食事をし、家庭的で楽しい食事になっている。片付けも、入居者自ら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回全員が入浴できるように援助している。入浴ができない方には、清拭をしている。拒否の強い方には、入浴剤を変えたり、バラ風呂やゆず湯等を、時間をずらすなど入浴が楽しめるように考慮している。また、浴室にリフトを設置して、入浴が困難な方でも入浴が可能になるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け、下膳、テーブル拭き、衣類の仕分け、洗濯物たたみ、雑巾縫いなどのできることは積極的にやっていたり、役割を持って楽しく生活ができるように支援している。また、地域のボランティアを受け入れ、ハーモニカ、大正琴、マンドリン等の演奏を聞いたり、レクレーションとして陶芸等も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所へ散歩に出かけたり、外のベンチで日向ぼっこをしたり、近所のお店へ買い物に出かけたりして、日頃から外出に心がけている。また、入居者の希望を聞きながら、年3回の外食、季節ごとの花見等への外出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけておらず、出入りは自由になっている。見守りをして、外へ出て行ってしまう入居者の気配を察知し、一緒に外出している。ドアに鈴が付いていて、開閉時には気づくようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。また、月に一回ホームで避難訓練を行っている。	○	年2回の避難訓練の際に、近隣住民や自治会の方々の参加協力をお願いし、万が一の際には一緒に対応してもらえるような関係作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下、咀嚼、病気等に応じて、刻み食やミキサー食等で対応している。食後には、食事摂取量を確認し、個人別に記載している。水分摂取量も記録し、水分摂取の少ない方には、水分が多くとれるように声かけを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井窓が開閉できるようになっており、ホーム内は風通しが良く、明るく清潔である。居室入り口には入居者が製作した陶芸プレートが飾られていたり、至る所に陶芸品が飾られ、暖かい雰囲気ですぐ居心地良く過ごせるようになっている。また、便所と書いた張り紙が大きくわかりやすい掲示がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、使い慣れた家具等の持ち込みをお願いしている。居室には、自分で製作した陶芸や写真が飾ってあったり、自宅から使い慣れたテレビや位牌等を置いて、居心地良く過ごせるようになっている。		